

点滴施肥技術の導入と栽培の安定化

要約

平成19年度から25年度末にかけ、県営事業により、茶園にドリップチューブによる点滴かん水同時施肥（以下点滴施肥）設備が導入された。県内茶産地では初めての設備であることから、長期的・継続的に指導と確認が必要であった。現在全ての設備が11箇所に稼働しており、収量、品質とも天候に左右されず向上し、生産者の評価も高い。

現状(背景)と課題

- ・月ヶ瀬桃香野地区に点滴かん水設備の整備進む
- ・計画面積22.1haでうち3.7haは新植園
- ・平成25年度末に整備完了
- ・点滴施肥導入園においての長期的・継続的な指導と確認が必要。

目標

- ・新植園の初期生育の安定化（3.7ha）
- ・成園での生産安定（18.4ha）

活動内容

- ・実証展示圃の設置収量・製茶品質調査
- ・桃香野水利用組合の指導（講習会・現地指導）

成果

- ・実証圃場において、一番茶収量は慣行比120～130%、一番茶品質は100～110%に向上することを確認した。
- ・平成23年度春に新植した園については、平成27年度より一番茶の収穫が可能である。点滴施肥により早期成園化も可能である。



写真左上：新植園2年目（H24.5月）

写真右上：新植園4年目（H27.2月）
※同一茶園にて撮影

写真左：点滴施肥設備の操作方法についての説明会

農業研究開発センター 技術支援課
担当：茶指導係 宮本大輔・辰巳直子
県営畑地帯総合整備事業

普及活動のポイント

- ・北部農林振興事務所、大和高原北部土地改良区との連携
- ・設備のメンテナンスも含めたきめ細かな現地指導

対象の変化

- ・点滴施肥が品質、収量向上につながるについて、設備導入生産者にほぼ理解された。
- ・点滴施肥を通じ、効率的施肥を行う必要性について、動機付けができた。

対象者からのコメント

- ・気象に左右されずに安定生産が可能。
- ・低コスト化と品質、生産力向上との両立が可能。

これからの活動ビジョン

- ・点滴施肥の効果を継続確認し、栽培マニュアルを修正・進化させる
- ・他地区への波及
- ・さらなる減肥と低コスト化

活動体制

